

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みを、シリーズでご紹介します。



協力事業所認定証

市では、消防団活動に積極的に協力している事業所に対し、平成20年度より「消防団協力事業所表示制度」を導入し、現在5つの事業所へ認定証を交付しています。

この制度は、従業員の入団促進や消防活動への便宜供与など、積極的に協力していただける事業所を、社会的貢献度が高い事業所として紹介するものです。

この制度を活用する事業所が増えることで、地域防災体制の一層の充実が図られることにもつながります。

大洲市消防団は1474人（平成28年4月1日現在）の団員により組織されていますが、1116人（約76%）の団員が被雇用者であり、今後も被雇用者の比率が高くなっていくことが予想されます。被雇用者が消防団員として活動する場合、事業所側のご理解とご協力が必要となります。

消防団協力事業所表示制度をご存じですか

また、今年度から、大洲市が行う建設工事に係る総合評価落札方式による入札において、消防団協力事業所の認定を受けていることが評価項目として追加され、評価点として2点が加算されます。

消防団協力事業所への参加・ご協力をお願いします。

【認定基準（いずれかに該当）】

- ▽従業員が消防団員として、相当数入団している事業所など
- ▽従業員の消防団活動について積極的に配慮している事業所など
- ▽災害時などに事業所の資機材などを消防団に提供するなど、の協力をしている事業所など
- ▽その他消防団活動に協力することにより、地域の消防防災体制の充実強化に寄与しているなど、市長が特に優良と認める事業所など

【問い合わせ先】

危機管理課消防係

☎ 1742

文化財

森山のサザンカ
愛媛県指定天然記念物
個人所有



本樹は、肱川中流域左岸に位置する森山地区にあり、根回り3.4m、樹高9.2m、樹齢は約150年になります。地上近くで幹が6つに分かれ、枝張りは東西に13.5m、南北に12mに広がり、こんもりとした樹冠の本樹は県内最大級の大きさを誇っています。

県内の自生サザンカの分布を見てみると、本樹のある肱川流域以北ではほとんど見られないことから、本樹が分布の北限とされています。このため、本樹は自生のサザンカの分布を知る上で、大変貴重な樹木といえます。



近年、枯れ枝が目立つなど樹勢が弱ってきたことから、昨年度樹勢回復の措置が取られました。

（昭和44年2月18日指定）

野鳥

オオムシクイ（大虫食）
スズメ目 ムシクイ科
全長10～13cm



9月も終盤になると、北海道東部や樺太、カムチャツカで繁殖して、ボルネオ、スマトラに越冬に向かう途中に立ち寄ります。数は多くありませんが、地味な色とメジロぐらいの大きさで、林や荒地に出没するので、出会っても気付かないことが多いようです。

ムシクイ類はどれも色形が似ていて、鳴き声で判断しますが、県内を通過する秋はさえずらないので、識別は困難を極めます。それでも長年観察を続けていると、微妙な動作や生殖環境などの違いで、おおよその見当がつかます。

私たちの知らない世界でわずか10cm余りの野鳥が、毎年命がけで大海原を渡り、島々を行き来して未来に命をつないでいるなんて、すごい一言に尽きると思います。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

大洲市地域づくり表彰

平成27年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（3団体）を、シリーズでご紹介します。

「今の活動ができるのはメンバーのおかげ」

平成17年度に三善婦人会から三善女性部に名称を改め、年間を通してさまざまな活動をしています。

自治会や公民館との連携や、小学校との交流事業など、自分たちが楽しみながら、地区のためになればと、活動を続けています。

特に敬老会では、余興などの事前練習を繰り返し行い、当日は大いに盛り上がります。住民から「今年も楽しみ」と言われると、「今年までやってきてよかった。今年も頑張ろう」と思えます。

また、「みよし健康マラソン大会」では、小学校PTAが豚汁を、私たちはおにぎりを作って参加者においしく食べてもらっています。

15年ほど前に婦人会が作った



三善女性部
部長 田辺 直子なおこさん

「三善音頭」での盆踊りは、多くの子どもたちと一緒に踊ります。また、子どもたちの登校を見送る「見守り隊」では、元気な顔を見て、声を聞くことで、私たちが元気をもらっています。

メンバーの高齢化が心配ですが、今年は2人が新しく加入し、現在49人となりました。ありがたいことに、地元のみなさんから頼りにしているという声をいただくので、これからも地域に貢献できるように活動を継続していきたいです。



毎年盛り上がる敬老会の余興

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

秋晴れが心地良い季節となりました。大洲商工会議所青年部（YEG）は今年で40周年を迎え、10月に記念式典を開催します。多くの先輩のみなさんや、近隣のYEGメンバーと交流する予定です。

大洲と共に歩んできた歴史を垣間見ると、先輩がいかにか大洲の将来を思って活動していたかが肌身に感じられ、襟を正す気持ちになります。次の50周年と大洲のさらなる活性化を目指して、青年部がやるべきことを積極的に取り組んでいきます。

【今月のクイズ】

愛媛には商工会議所青年部が9団体あります。一番初めに設立した団体はどこでしょうか。

- ① 大洲商工会議所青年部
- ② 松山商工会議所青年部
- ③ 新居浜商工会議所青年部



【先月号のクイズの解答・解説】

大洲で古くから作られてきた品種で、現在多く栽培されているサトイモは次のうちどれでしょうか？

- ① 伊予美人いよびじん
- ② 蓮葉芋はすはしも
- ③ 女早生おんなわせ

答え…③女早生

解説…愛媛で昔から作られる良質の品種で、子イモや孫イモがたくさんできます。小ぶりながら、ねっとりとした舌触りと甘さが特徴です。

みなさん今年はいもたきを楽しまれたでしょうか。おいしい大洲のサトイモをどんどん食べましょう。



※今月のクイズの答えは、広報大洲11月号に掲載します。

みんなで考えよう いじめをなくすために
 ～いじめSTOP愛顔の子ども会議～



ゲームを通して、子どもたちの緊張が和らいだ

平成28年度「いじめSTOP愛顔の子ども会議inおおず（市教育委員会主催）」が8月19日（金）、総合福祉センターで開催されました。

今回で2回目となるこの会議は、市内の小中学生が集まり、他校の仲間と意見を交換することで、いじめ問題にしっかりと向き合い、考えを深めることを目的に開かれています。

この日は市内の全小中学校から2人ずつの児童生徒が参加し、会議に先立ち、自己紹介や仲間づくりのためのエクササイズが行われ



各校の取り組みに対し、質問が寄せられた

ました。

他校の仲間と親睦を深めた後、校区ごとの小中合同グループに分かれ、各校のいじめに対する取り組みの発表が行われました。小学生にとっては、進学先の中学校ではどのような活動が行われているか、中学生にとっては自分が卒業した学校での現在の取り組みについて学んでいました。

最後は小中別のグループに分かれ、「いじめはどうして起こるのか」「今後、自分にできること」などのテーマについて積極的な意見交換が行われました。

意見交換での子どもたちの発言（抜粋）

- ▽いじめは相手の生きる力を奪う。被害者の傷は一生残ることを、加害者は考えていない。
- ▽けんかとは違い、いじめは自己中心的で、幼稚な行動。
- ▽いじめ加害者はストレスを抱えているのではないか。いじめ加害者も含めて、みんなの気持ちに気付いてあげることが必要。しかし、どんな理由があってもいじめは許されない。



大洲東中学校3年
 ひろよし
澤山 弘祥さん

私は今、大洲東中学校で人権環境委員長をしています。いじめが発生した原因をはっきりさせることも、いじめ撲滅への道の一つになるのではないかと考えています。

今回、他校のさまざまな活動内容や意見を聞いて、自分の学校でも新しいことに取り組みたいと思いました。



大洲小学校6年
 ほの
清水 穂乃さん

大洲小学校では「フレンドタイム」という全学年が一緒に仲良く遊ぶ時間があります。いじめをなくすにはとても効果のある活動だと思います。

今日は初めて話す子もたくさんいましたが、初めてのエクササイズでリラックスできて、みんながひとつになり、たくさん意見交換ができました。

命を守り、最良の対策を

不審者対応訓練が8月9日(火)、市立大洲学園で行われました。今回は、7月に神奈川県相模原市で発生した障がい者施設での殺傷事件を受け、大洲学園が大洲警察署に依頼して実施されました。



刃物を持つ犯人役を男性4人で押さえる



意味不明な言動を繰り返す犯人役



効果的な対応法の実演

訓練では意味不明な発言を繰り返す犯人が施設に押し入り、刃物で危害を加えようとする想定で、職員らは110番通報を行ったほか、さすまたや消火器などで犯人に対応しました。

訓練後には、大洲警察署員による講評と、さすまたの効果的な使用方法や護身術の指導などが行われ、職員は熱心に聞き入っていました。夜間宿直職員の西山恵吉けいきちさんは「初めてさすまたを使ったが、狭い場所では難しい。夜間は一人で犯人と対することがあるかもしれないので、これからも訓練を重ね、いざという時に備えたい」と話されました。

楽しかった初めての海外生活 ～大洲市中学生海外派遣事業帰国報告会～

大洲市中学生海外派遣事業の帰国報告会が8月17日(水)、市役所大ホールで行われました。

この事業は、国際化時代にふさわしい人材を育成するために毎年実施されています。15日間の日程でオーストラリアを訪れていた市内7校12人の生徒は、初めての海外生活で体験したことや、現地での交流活動の報告、派遣事業関係者への感謝の言葉を述べていました。



きれいな花でおもてなし ～「全国障害者スポーツ大会」へ向けて～

大洲農業高等学校生徒による花植えが9月2日(金)、来年の国体後に開催される「全国障害者スポーツ大会」の会場となる総合体育館で行われました。

大会参加者をきれいな花でもてなそうと、生産科学科3年の生徒6人が、玄関前の花壇にマリーゴールドを植えました。生徒が夏の間大切に育てた花は、体育館利用者などの心を和ませています。

この花植えは、来年度も実施されます。



大洲ブランドの首都圏進出を目指して

「平成28年度ええモンセレクションブランド戦略支援事業」の一環として、「首都圏販路開拓スキルアップ研修」が、7月29日(金)、ええモンセレクション認定事業者など、16人が参加して市役所で開催されました。

この日は、株式会社紀ノ國屋営業本部商品部より大坪素久副社長付シニアアドバイザーを迎え、消費者やバイヤーのニーズから見た商品開発について講義があった後、商品の目利き相談が行われました。

参加した事業者らは、首都圏への販路拡大を狙おうと、商品に対する専門家からの的確なアドバイスに熱心に耳を傾けていました。



商品へのアドバイスを受ける事業者

また、関西圏における大洲産品の売り込みおよび観光PRのため、8月4日(木)から7日(日)までDMダイキなんば店(大阪市)で開かれた「愛媛のふるさと愛味もフェア」に出展しました。

2年ぶりの関西圏での販売イベントとなった今回は「大洲ええモンセレクション認定商品」を中心に約40品目の店頭販売を行い、好評を博しました。このフェアにおける消費者動向などを収集分析し、関西圏におけるニーズ把握や価格設定などを行うことができました。

市では今後も、大洲の優れた産品をより磨き上げ、積極的な情報発信や販路開拓を支援します。



ダイキなんば店での販売

暑い夏 肱川で熱いレース ～第26回大洲市カヌーツーリング駅伝大会～

第26回大洲市カヌーツーリング駅伝大会が、8月21日(日)、肱川を舞台に開催されました。

47チーム289人が参加した今年の大会は、大成橋上流をスタートし、大洲城下のゴールまでの5区間15.3kmをカヌーでつなぎ、タイムを競いました。晴天に恵まれ朝から焼けつくような日差しの中、選手たちは開会式会場となった大川地区のみなさんから声援を受け、バランスをとりながら一生懸命パドルを操作して次の選手につないでいました。

レースを終えた選手たちは、大洲城下でゴールした選手を拍手と笑顔で迎え、健闘をたたえていました。



美しい景色を見ながら一斉にスタート

カヌーツーリング駅伝大会 成績

Aクラス (7チーム41人)

順位	チーム名
1	大洲カヌークラブ
2	YAMATEBORI
3	シャークインパクト

Cクラス (8チーム43人)

順位	チーム名
1	ザ・ポテトーズ
2	肱東中ソフトテニス部B
3	タイガース

Bクラス (27チーム175人)

順位	チーム名
1	ハロー☆ウサミミ2016
2	チーム川猿
3	ZERO

レディースクラス (5チーム30人)

順位	チーム名
1	だむっこ鹿野川
2	オレンジクイーン
3	重信ガールズ